

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和元年6月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100591
法人名	医療法人 愛人会
事業所名	グループホーム 桜並木
所在地	鹿児島県鹿児島市紫原四丁目30番22号 (電話) 099-802-4312
自己評価作成日	令和元年5月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和元年6月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慈愛の精神 すべての人を愛する人間愛のもとに、すべての人の意思を受容し、すべての人の人格及び尊厳をお守り致します。自立の支援その人の出来ない事だけを支援し、自立性を高めて頂きます。社会的役割 私たち職員は、常に入居者と同じ目線に立ち、地域の社会資源となるよう努力します。入居者、家族、地域、ボランティアの方々が入りやすい雰囲気であり、共同生活空間が家庭的で落ち着いたものになるよう配慮していきます。当グループホームは閑静な住宅街にあり、公園やドラッグストア等もすぐ近くにあるので、散歩や買い物等を楽しむ機会を多く持てるように支援しております。

また、同系列の医療機関と24時間連携が取れるようになっているので、緊急時の対応や、医療的な指示を受けたりする事が迅速に行える体制が出来ている。協力医療機関の主治医による往診が月2回、看護師長による健康チェックが週3回行なわれており、定期的な医療行為を行なってもらっている。また、必要に応じて訪問歯科診療等も受けられる体制が出来ている。他に、事故報告書やヒヤリハットの記入、提出を徹底しており、事故の再発予防、リスクマネジメントに力を入れている。また、季節毎の行事や園外活動、レクリエーションも楽しんで頂けるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホームの理念である「慈愛の精神・自立の支援・社会的役割」を日常や職員会議時に話し合い、振り返り、理念を意識した介護を心がけていく。
- ・アットホームな雰囲気を大切にし、本当の家族のような関わりを実施し、入居者の個性やこだわりを大切にしながら、その人らしい生き方ができるよう様々な配慮を行っている。
- ・町内会に加入し、夏祭りや清掃活動等の地域行事への参加や保育園及び幼稚園児、ボランティアの来訪等で地域との交流に取り組んでいる。
- ・健康管理について協力医療機関と24時間の医療連携体制が構築されており、医師の往診、看護師の健康チェックにより利用者・家族及び職員の安心に繋がっている。
- ・食事は栄養士による献立、食材発注により地産地消を心がけ職員が交代で入居者と一緒にホームの味を作り上げている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ユニットの見やすい名所に理念を掲示し、日々のケアが理念に沿ったものになるように意識している。	母体医療法人と同じ理念を廊下の目につきやすい所に掲示し、理念とケアのあり方を職員会議で繰り返し話し合い、全員で理念を共有しながら、ケアの実践と統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、行事を通して近隣の保育園や幼稚園とも交流の機会を持っている。	町内会に加入し、夏祭り、清掃活動等に参加したり、近隣の保育園及び幼稚園児の来訪やボランティアを受け入れている。買い物や散歩時に近隣住民との挨拶をする等、地域と継続的な交流ができている。回覧板で事業所行事の周知を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	敬老会等の行事や勉強会を実施して地域の人達にも参加を呼び掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施し、意見交換やアドバイスをもらったりしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の状況報告と意見交換を実施している。参加者から提供された地域の情報を話し合い、事業に反映できるよう努めている。職員の名前が分からぬとの意見が出た際には、便りや面会時に紹介する等、意見を反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	入居状況報告書を定期的にメールしているが、その際に連絡事項を添付して送信している。	メールをしたり、関係窓口に向いて報告や相談をしたり、入居者の暮らしぶりやケアの様子を伝え連携を図っている。市主催の研修会に出席するよう努め協力関係が築けるようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置、勉強会も定期的に行なっており、身体拘束廃止の意識を持つもらうよう努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に1回の勉強会で正しい理解と実践ができるよう、言葉遣いも含め心身共に拘束をしないケアについて学んでいる。全員の目に付きやすい所に「身体拘束廃止宣言」の額を掲示、玄関は施錠せずに付添いで対応する等、拘束のないケアに取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	尊厳の気持ちを大切に言葉使いに注意している。大声等で入居者様に恐怖心を与えないように留意している。			
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は成年後見制度を利用している入居者様はいないが、職員の認識を深めるため勉強会を実施していきたい。			
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居申し込み時に重要事項説明書やパンフレットを用いて説明し、理解を得ている。			
10 6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議、ケアプラン担当者会議、面会時等に意見、要望を聞き、日々の申し送り、職員会議に意見交換を行いサービスに反映できるように努めている。	利用者には、介護相談員との面談や日々の会話で意見を聞いている。家族には、面会時や家族会、アンケート等でコミュニケーションを図り、要望を表せるよう努めている。出された意見や要望は話し合い運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者は、管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼や職員会議等で、意見を述べられる機会を作っている。必要に応じて個別面談も行なっている。	管理者は朝礼や毎月の職員会議で意見を聞く機会を設け、意見の反映に努めている。個別相談も管理者が対応しており、洗面台にコップ・歯ブラシを置く台を設置したり、パット使用時の工夫等、職員の意見を反映させ利用者の身体・精神面の軽減を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者が法人の事業所連絡会議に参加し、職場の状況とを報告し問題解決出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には新人研修を行い、その他の職員にも定期的な勉強会に参加し、サービスの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加の他、他事業所との情報交換を行い、質の向上を目指している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に当ホームを見学して雰囲気を実感、体験して頂く。本人の希望や不安な事等を話して頂く。また、自宅へ伺い生活歴、環境を考慮して信頼関係を築けるように心がけている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族への不安、ホームへの要望を尋ねる。保オームの特性、ご家族への協力依頼等を併せて説明し、相互理解を深めるよう努める。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から話を良く聞き、必要としている支援を見極めるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	両氏、掃除、裁縫等、本人の興味のある事を一緒にに行う機会を作っている。人生の先輩として生活の知恵を学ぶ機会としている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への手紙を毎月発送しており、行事への参加も呼びかけている。家族が気軽に面会に来られるような雰囲気作りを心掛けている。			
20 8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所のスーパーに買い物に行ったり、行きつけの店に行ったり等、車で野外出も行なっている。	近隣在住の利用者が多く、多数の面会がある。馴染みの人の面会や訪問時には、寛げる雰囲気・空間づくりを心掛けている。一緒に外食や自宅訪問等をしてもらう等、関係が途切れないう支援している。		
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同スペースにて、おやつ・レクリエーション・体操等を行なっている。各入居者の性格、相性等を考慮し、会話等の交流を大切にしている。			
22	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院にお見舞いに行き本人と話をしたり、ご家族の不安等を話してもらっている。契約終了後も行事の案内状を送付したりしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>一日の時間帯の中で、居室でゆっくり出来る時間を設けている。本人が話しやすい環境を作り、希望や不安などないか尋ねたりして、入居者の立場になって考えるようにしている。</p>	<p>居室でゆっくり話を聞く時間を設け、本人の思いを把握するよう努めている。得られた情報は、朝礼や職員会議時に職員間で共有している。意思疎通が困難な場合、家族や関係者などから情報を得て、本人本位に検討している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時、他事業所からサマリー等の情報を把握する。また、毎日の生活、会話の中から新たに情報を得られるように配慮している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>居室に籠っている時間、日中の臥床時間等の長さや食事摂取量、表情、行動、会話等を観察しその人の全体像を把握するようしている。</p>		
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご家族の面会時、運営推進会議の参加時等に希望、意向を聞いている。また、担当者会議を開催しケアプランに活かしている。</p>	<p>主治医、看護師等の関係者から助言をもらい、利用者や家族も含め相談しながら介護計画を作成している。定期的な見直しのほか本人、家族には日頃の関わりの中で思いや要望を聞き、6ヶ月に1回及び状況変化時に見直している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録にその日の様子を記録し、朝礼や引き継ぎ時に報告し、職員間で情報を共有している。		
27		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望や意向を聞きだすようにし、それに沿った支援が出来るよう努めている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や近くの店等に行く機会を持ち、少しでも地域との交流が出来るよう配慮している。		
29		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に協力医療機関での受診、往診を受けて頂いているが、家族や本人の希望があればかかりつけ病院での受診をしてもらっている。	全員が母体医療機関を主治医にしている。往診や看護師の週3回の健康チェック等、24時間の医療連携で対応し結果は家族に報告している。歯科の往診もある。入居前からのかかりつけ医は本人や家族の希望を尊重し継続に努めている。	
30	11				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中で得られた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	生活の中で変化があった時には24時間、協力医療機関に連絡し指示を受けられるようになっている。看護師長も週3回入居者の健康チェックに来ている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時、情報提供書、介護要約サマリーを提供している。入院中も適宜回復状況を把握している。また、入院先医療機関と連携し早期退院に努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	早い段階で家族、医師を交えて話し合いを行い、今後どうするのか、何が出来るのかを話し合うようにしている。	入居時に重度化に伴う対応の方針を説明し、同意書をもらい共有を図っている。重度化や終末期には医師が説明を行い、本人、家族の意向を確認しながら連携を図り、支援に取り組んでいる。看取りの実績もある。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	勉強会を行い、緊急時の対応についての知識と技術を深めるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年ごとに消防訓練を実施している。消防署員や防災設備の担当者にも参加してもらい指導してもらっている。	年2回の避難訓練を昼夜想定で実施し、1回は消防署の立ち会いがある。地域には回覧板で周知している。法人内では防火管理者を中心に消防訓練を実施し協力体制ができている。非常用の備蓄は、法人で準備している。	母体法人との距離があることから、利用者の生命を守るために対策として、事業所独自での備蓄を望みます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	失禁汚染時の更衣など入居者の気持ちに立って言葉を欠けている。また、周囲の方にも配慮している。	事例を挙げた研修を実施し、トイレ誘導時のさり気ない声掛けやさん付けでの呼び掛けなど、言葉遣いや接遇応対の質を高める取り組みをしている。申し込み時は、利用者のイニシャルを使う等でプライバシーを確保している。	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	入居者の性格や認知症の程度に合った声かけを心掛けながら、本人の希望に沿った支援が出来るよう配慮している。		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	自室で之臥床時間が長い時や共同スペースで過ごしている時に疲労感が見られる時等には声かけを行い生活リズムや体調が崩れないように支援している。		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	こだわりのある方は、行きつけの美容室に通っているが、特にこだわりのない人は月一回の訪問カットで整髪してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事時は、職員も入居者と一緒に食事をするようにしている。配膳、下膳の手伝いもしてもらうよう声かけを行っている。	法人の栄養士が献立を立て、食事作りは職員が交代でホームの味に仕上げている。行事食やおやつ等、利用者の好みを取り入れながら手作りしている。準備・片付け等職員と一緒に行っている。誕生日のケーキ、外食、弁当等の楽しみにも工夫して取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人に応じた食事形態で配膳しており、摂取量も日誌に記録している。食事量の少ない人は、看護師長等に相談し指示をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科診療に来てもらっており、治療や診察を受けられる体制が出来ている。口腔ケアも毎食後と就寝前に行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックを行い、パターンを把握しトイレ誘導を行っている。失敗や汚染で自尊心が傷つかないよう気を付けている。出来るだけオムツに頼らない支援を心掛けている。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、定期的な声掛け・誘導を行い、日中はトイレでの排泄を支援している。夜間は身体状況等からパット交換や尿器の利用等もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分摂取量を記録し、日常の活動量等も把握して、下剤等に頼らない排泄を検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日はそれぞれ決めてあるが、体調や気分によって日程を変更している。また、入浴剤なども使用しゆっくりを入浴を楽しめるよう配慮している。	週2回以上の入浴を基本に、10時～15時の間の好きな時間帯でゆっくり楽しんでもらっている。体調により入浴日を変更したり、保清目的の入浴も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転等の生活リズムが崩れないように日々の休息時間を観察している。就寝は本人が休みたい時間までリビングで自由に過ごされている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が処方箋に目を通すようにしている。薬包の各入居者の名前、日付の確認を徹底し、薬剤の飲み残し等が無いように飲み込むまで見守り、声かけを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の趣味を把握し、楽しんでもらえる機会を作り、他入居者も一緒に楽しめるよう支援している。			
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日は公園へ散歩に行ったり、近くの店に行って買い物を楽しんでもらっている。また、「月一回程度行事を開催し屋外活動を楽しんでもらう機会を提供している。	日常的に、近隣の公園への散歩や買い物に出かけている。年間行事予定に沿ってそうめん流しやコスモス見物、外食等を行っている。今年度は外出の機会を増やす予定である。家族と自宅訪問や法事・外食等で外出・外泊する利用者もいる。		
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や方に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に職員が管理しているが、外出時等、状況に応じて本人に渡すようにしている。			
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族より電話があった場合は取り次いでおり、また、本人より申し出があった場合はこちらから家族へ電話をかけることもある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を心がけて、衛生的で快適な環境作りを目指している。また、創作活動による季節の飾り物等を展示し、季節感を出すようにしている。	共用の空間は日当たりが良く、温度・湿度等、快適な室内環境が保たれている。壁面は季節に応じて手作り作品や行事の写真等、飾り物を変え四季を感じるよう工夫されている。テーブルの他、畳の空間があり利用者は好みの場所で居心地よく過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いで過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に自分の居心地のいい場所で過ごして頂くよう配慮している。リビングで過ごされる人には、出来るだけ職員も話しかけるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれた家具や家電製品を持って来て貰い、自分が住んでいた家に少しでも近づくように配慮している。	介護用ベッド・洗面台・エアコンのある居室に、家族写真、テレビ、テーブル、籐椅子等、好みのものが持ち込まれ、快適に過ごせるような工夫がされている。職員の配慮でハンガーラックに洋服や帽子が掛けられ、何時でも着用したい衣服が選べるようになっており、居心地の良い空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人の残存能力を生かし、自立支援を行っていく。また、事故防止の話し合いも行ない、安全に過ごせるよう配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいの
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいの
		<input type="radio"/>	4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある
		<input type="radio"/>	2 数日に1回程度ある
		<input type="radio"/>	3 たまにある
		<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	3 利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	4 ほとんどいない

			1 ほぼ全ての利用者が
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)	<input type="radio"/>	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームになじみの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に 1 回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない